

1. キャリア・アンカーとは

キャリア・アンカーは、MITのエドガー・H. シャイン教授が提唱している概念で、スローン経営大学院（MITのビジネススクール）の修士課程の同窓生などを対象とする長年にわたる研究の結果により導き出された非常に実用性の高いものです。

キャリア・アンカーはその名のとおりキャリアにおける不動点であり、各々がどうしても犠牲にしたくない、各々の本当の自分を象徴する3つの要素である、コンピタンス(成果を生み出す力)、動機(何がやりたいか)、及び価値観(何に価値を感じるか)が複合的に組み合わさったものです。それはどのような職種についても基本的に変わらないもので、ほとんどの人が8種類のカテゴリーのどれかにあてはまります。

2. キャリア・アンカーの8つのカテゴリーの説明

■ 職人 ■

関心領域 特定の分野(企画、販売、人事、エンジニアリングなど)で自分の能力や技術を発揮し自分の能力を活用することで自分らしさを確立すること。
その分野で新たな挑戦をし、成長していくことを最も幸福と感じます。

特徴など 自分の専門的な力で人を動かしていくことに積極的でも、自分の専門分野での経験知識が活かされない管理業務そのものにはあまり関心がなく、いわゆるゼネラルマネジメントには携わりたくないと思っています。

■ リーダー ■

関心領域 様々な人の力を結集し、成果を生み出し、その成果に責任を負い、信頼に応えること。
組織内の様々な機能を相互に結びつけ、対人関係を処理し、集団を統率する能力や権限を行使する柔軟な能力を発揮し、組織の期待に応えることができたとき最も幸福に感じます。

特徴など 現在もし専門的／実務的な分野で仕事をしている場合、それが必須の体験と考えるとよいでしょう。
とはいえ、あなたはできるだけ速やかに総合的な仕事に就くことを希望するでしょう。

■ 自由人 ■

関心領域 組織のルールや規制に縛られず、枠組みを自分で決め、自分のやり方で仕事を進めていくこと。
組織に所属している場合、仕事のペースを自分の裁量で自由に決める事ができるようにしたいと希望します。

特徴など 組織に大なり小なり取り決めや規制があることには我慢ができません。
自由そのものがキャリア・アンカーである場合、それを確保するため、昇進などのチャンスも見送ることもあるでしょう。
自由と独立をキャリア・アンカーにもつ人の動機は、必ずしも後述する起業家精神と同一ではありません。
教師、コンサルタント、その他のいわゆる自由業を探ることになるかもしれません。

■ 組織人 ■

関心領域 キャリアを安定させることによってリラックスし「達成感」を持つこと。雇用保障、年金、退職手当などの経済的安定と、一定の地域で生活し、一つの家に定住するなどの居住安定性を希望します。

特徴など 一つの組織に勤務し終身雇用の保証をしてもらえる限り、組織側の要望を何でもするという組織への忠誠や献身などがよくみられます。自分の才能を発揮してかなり高い水準の仕事をこなすことができるときでも、そこで取り組む仕事の内容や位置づけにはあまりこだわりません。才能があり、組織内で高い地位に昇進できるチャンスがあっても、安定して先の予測ができる仕事(例えば大規模な製造業)を好み、あらたな挑戦やリスクを伴う昇進や転職は避けるでしょう。誰も安全や安定に対する一定のニーズをもっています。特に経済的に大きな問題をかかえていたり、退職直前などにはそうなるでしょう。しかし、このキャリア・アンカーの場合は、常にこうした問題が主要な関心であり、そのために安全や安定を獲得するための全体構想を構築しています。

■ 社会派 ■

関心領域 暮らしやすい社会の実現、他者の救済、教育など、価値のあることをなし遂げること。

特徴など 転職をしてでも自分が関心を持っている分野で仕事をする機会を追い求めるでしょう。自分の価値観と反する組織のもとでは働かず、自分の理想や主義主張のために働くことができないなら、昇進も拒むでしょう。

■ チャレンジャー ■

関心領域 一見解決困難と思える問題の解決に取り組むことや、手ごわい相手に打ち勝とうとすること、あるいは難しい障害を克服しようとするなど。不可能に打ち勝つプロセスが重要なのです。

特徴など 知力を要する仕事において純粋にやり甲斐を感じる人、人と人の競争にやり甲斐を感じる人などが含まれます。目新しさ、変化、そして難しさ自体が目的になります。少しでも簡単にできることだと退屈してしまいます。

■ バランサー ■

関心領域 個人的な欲求、家族の要望、自分の仕事に求めるもののバランスや調整をうまくとることに勢力を傾けます。全体として自分のライフワークをまとめることができるようにしたいと考えています。したがって仕事を考えるときは、そうしたことが思いどおりにできる状況を作り出そうとします。

特徴など 生活全体の計画やバランスを狂わせてしまう可能性のある昇進や転職などは断ることもあるでしょう。このアンカーの人の成功は仕事上の成功よりももっと広い意味を持っています。自分のトータルの人生をどう生きているのか、自分がどこに住むのか、家族をどのようにするのか、そして仕事や組織といったことよりも自己開発といったことが自分らしさに深く関係しています。

■ 新価値創造 ■

関心領域 何か新しいものを創り出すことであり、障害を乗り越える能力と意気込み、リスクを恐れず何かを達成すること。何かを築き上げ、それが自分の努力によるものだという実感を得たいという強い欲求が主な原動力です。

特徴など 自分のやり方で独自の組織を築く自由がなければ、他人のために働きたいとは思わないでしょう。これを前にあげた独立希求派のニーズと混同しないでください。独立したいという欲求から自分の事業を始める人もいますが、起業家の目的は、ビジネス、コンセプト、または組織を創造し、その成果を自己の一部と感ずることにあるのです。